

平成30年度 大阪高等学校 学校評価

1 めざす学校像

1927年（昭和2年）、旧制中学校として創立以来、「知育・徳育・体育の調和のとれた全人教育」を追究すると共に、時代の変化を見据えた新たな教育目標である「未来へ、世界へひらく自己の確立」を掲げ、ユニークな進学校を目指します。

- ①学力を多面的に捉え、向上を図る ②進路観を掘り起こし、希望進路の実現を図る
③学校行事・部活動の充実を図る ④基本的生活習慣の確立を図る

目指す学校づくりとして

1. 学習活動と特別教育活動の両面を充実させ、人間的成長と希望する進路の実現を図る学校
2. 生徒・保護者および地域から愛され、信頼されるとともに、安心して安全な学校
3. 広報活動を充実させ、より多くの中学生・保護者に理解いただき、支持を頂ける学校

2 中期的目標

1 学び続ける力の育成

- (1) 学力の向上に取り組む
- (2) 指導力の向上に取り組む

2 問題解決力の育成

- (1) 大高文化創造の柱として学校行事の充実に取り組む
- (2) より一層の生徒会執行部活性化に取り組む
- (3) 部活動の充実を図り、大高への帰属意識を高めることに取り組む
- (4) ルール遵守を基盤に学習集団についての育成に取り組む
- (5) 女子生徒指導のあり方追究に取り組む

3 選択する力の育成

- (1) 進路実現を目指し、自らの課題を設定するための幅広い教養を身につける
- (2) 地域社会の諸問題に興味関心を持ち、その課題に主体的に取り組む探究心を養う
- (3) 協働やキャリア形成を意識した学習力を有し、自立した学びの成果を発信し再提案するための基礎学力を習得する

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成30年11月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○「自己評価」に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全家庭に保護者アンケートを郵送、無記名回答。回収率 96.0% ・全生徒アンケートは2学期期末試験最終日に実施。教員がアンケートを配布、回収。 <p>○生徒の肯定的回答上位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) [規律ある学校生活] 高校生に相応しい規律ある生活、マナーを守った集団生活を自分は送れていると思いますか。 肯定評価の割合 82% (昨年より+5%) 2) [部活動] 大阪高校のクラブ活動は全体として活発に活動していると思いますか。 肯定評価の割合 78% (昨年より+5%) <p>○生徒の肯定的回答下位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) [目標設定] 自分の将来と結び付けて今なすべきことを考えられるようになりましたか。 肯定評価の割合 73% (昨年より+8%) 2) [学習] 自分なりの目標や課題をもって、日々の授業や家庭学習に取り組んでいますか。 肯定評価の割合 60% (昨年より+7%) <p>○保護者の肯定的回答上位2項目</p> <p>[安全取組] 登校・下校時指導や緊急メールなど、生徒の安全に対する学校の取り組みは十分だと思われますか。 肯定評価の割合 95% (昨年より+6%)</p> <p>[総合満足度] お子様を本校へ入学させてよかったと思われませんか。 肯定評価の割合 91% (昨年と同じ)</p> <p>○保護者から見た今後の課題</p> <p>[育友会活動] 育友会（大阪高校保護者と教職員の会）の活動への関心度 [目標設定] 保護者の目から見たお子様の、自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられる</p> <p>○教員の肯定的回答上位2項目</p> <p>[部活動] 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思いますか。 肯定評価の割合 91% (+7%)</p> <p>[進路指導] 本校は進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分に役立っていると思いますか。 肯定評価の割合 83% (昨年と同じ)</p> <p>○教員の今後の課題</p> <p>[学習] 生徒は、自分で立てた計画に沿って、自ら主体的に学習に取り組める。 [目標設定] 生徒は、学校生活全体を通じて自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられる。</p> <p>【分析】</p> <p>生徒の「規律ある学校生活」、保護者からの「安全取組み」や「総合的満足度」は昨年度同様高評価を維持している。一方で、「学習関係」と「目標設定」の2点は、昨年度より割合が向上しているが、引き続き推進をしていく必要がある。</p>	<p>第1回</p> <p>◇来年度からの「探究コース」開設や「広げる総合」「高める文理」「深める探究」を押し出し、今後も「未来へ世界へ」向けての多様な選択肢の設定など大高の教育活動の質を全体で押し上げていく時期を迎えている。その中で海外の大学への進学希望者、カフェテリアでの放課後学習者、夏期学習合宿参加希望者の大幅増に見られるように、前向きな生徒が劇的に増えた。大高の教育活動に生徒たちもその気になってやっていることで生徒の意識が育ってきたのではないかとと思われる。今後も生徒個々が成長できる活動を期待している。</p> <p>第2回</p> <p>◇1年ではルーブリック評価という「多面的に子どもたちを評価するもの」として初の試みがあり、2年では企業とのコラボで取り組む「クエスト」で、全国でも唯一、3チームが全国大会出場を果たし、3年では新しい出口への取り組みとして地方国公立大学や海外大学への進学支援に向けての新たな胎動が見られた。他にも和太鼓部の活躍や探究部の環境 DNA 学会参加など文化部、運動部を問わず各クラブ活動の頑張りも見られた。夏期講座も海外を含め様々な大学とのコラボなど画期的な取り組みがあった。そこには、現場の教師が創意工夫して動いていることが窺え、「人を育てる」という大高の新しい姿が構築されつつあると思われる。この1年は、地震、豪雨、台風があり本校も少なからず被害にあったが、教職員の臨機応変な対応に改めて学校の幹の部分の安定感が感じられた。今後も枝葉の部分育て、様々な協力を得ながら更なる良い学校づくりを期待したい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学び続ける力の育成	(1) 多面的な学力の向上			
	ア 課題解決型プログラムの導入	ア 2年生総合コース総合的学習の時間でクエストを実施	ア 全国大会への出場	ア 導入2年目、3チームが全国大会出場(昨年度1チーム)
	イ 夏季学習合宿の充実	イ 英語コース、A0コース、自学コースの3コース制に変更	イ 参加人数	イ 195名の生徒が参加(昨年度79名)
	ウ 夏期講座の充実	ウ 無学年制を基本とし、教師が教えたい内容を提起	ウ パラエティーに富む講座の確保と参加生徒数の増加	ウ 講座数81(昨年度76) 延べ講座受講数 1495(昨年度1474)
	(2) 指導力の向上			
	ア 研究授業の実施	ア 教師が共に学ぶ場の設定	ア 年間1回の開催	ア 研究授業を5科で実施。
イ 研修会の充実	イ 高大接続改革への理解を深める	イ 学内の研修充実	イ 全学教員研修を2回実施	
2 問題解決力の育成	(1) 学校行事の充実			
	ア 文化祭におけるクラス参加の継続	ア 文化祭におけるクラス参加の継続	ア 工夫度の向上	ア 3年生は食品模擬店と縁日模擬店の両方を出せるように変更 クラブにも模擬店参加を開放
	イ 文化祭における来場者の規制緩和	イ 文化祭における来場者の規制緩和	イ 来場者人数1,600人	イ 2017年度2,079名⇒2018年度2,092名
	ウ 体育祭における学年ミックス参加の継続	ウ 体育祭における学年ミックス参加の継続	ウ 各応援団への参加60人	ウ 各応援団につき50名程度の生徒が参加
	(2) 帰属意識の向上			
	ア 新入生歓迎会でのクラブ参加呼びかけ オープンスクールでの体験・見学	ア 新入生歓迎会でのクラブ参加呼びかけ オープンスクールでの体験・見学	ア 加入率60%以上	ア 加入率57.8%
イ 担任⇒ブロック⇒学年での指導 保護者への密な連絡での指導	イ 担任⇒ブロック⇒学年での指導 保護者への密な連絡での指導	イ 出席率98%以上	イ 出席率97.2%	
ウ 着こなし指導の継続実施	ウ 着こなし指導の継続実施	ウ 年4回以上の着こなし週間設定	ウ 年6回の着こなし週間を設定	
エ Q-Uアンケートを活用しての学級運営 予防的指導と早期問題解決に活用	エ Q-Uアンケートを活用しての学級運営 予防的指導と早期問題解決に活用	エ 学級満足群50%以上	エ 学級満足群クラス平均42%	
3 選択する力の育成	(1) 自らの課題を発見する 幅広い教養や情報			
	ア 進路ガイダンス機会を各学年テーマ別に有効活用	ア 進路ガイダンス機会を各学年テーマ別に有効活用	ア 校内の人的資源と校外の人的資源の活用機会増加	ア 外部ガイダンスを各学年別のテーマに沿って年1~2回実施 延べ100校以上の大学専門学校、または企業人が参加
	(2) 地域社会の諸問題に取り組む探究心			
	イ 学年と校務分掌会議の改革と充実	イ 学年と校務分掌会議の改革と充実	イ 適切な進路情報提供による面談の充実度	イ 進路検討会 年2回実施(進路分野別) 検討会実施の狙いは、より具体的な進路情報の提案と共有、進路支援体制の充実である。⇒進路決定率92.4%の実現
	(3) 協働やキャリア形成意識のための基礎学力			
	ウ ラボ事業の提供	ウ ラボ事業の提供	ウ ラボ事業により、社会の諸課題に触れ、自らの課題を設定させる	ウ 卒業後の進路で主体的に学び続ける探究力を育成する
エ 入学前教育の充実	エ 入学前教育の充実	エ 志望進学別課題	エ 文章能力や語学、ビジネスマナー課題を選択実施早期進路決定者の外部講師面談実施(読書レポート含む)	